

令和2年度第1回(第67回)CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和2年8月6日(木) 10:00～11:45

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者(順不同・敬称略)：

高木真人委員長、大和田淳委員、原田克之委員、木下泰三委員、八坂保弘委員、
安部田貞行委員、岩田敏委員、河津宏志委員、新宅英司委員、塩見誠規委員、印南幸夫委員、
本間泰造委員、矢内悠介委員、尾崎章幹事
オブザーバ：広崎膨太郎前会長

配布資料

- 資料 1-1-1 日豪交流参加報告書
- 資料 1-1-2 FEIAP-EXCO 参加報告書
- 資料 1-2 令和元年度第4回(第66回)CPDプログラム委員会議事録(案)
- 資料 1-3-1 第27回(2019年度第6回)CPD運営委員会議事録
- 資料 1-3-2 第28回(2020年度第1回)CPD運営委員会議事録(案)
- 資料 1-3-3 2019年度ECEプログラム完了と2020年度認定(継続及び新規))
- 資料 1-3-4 CPD 一口メモ No7_広報委員会
- 資料 1-3-5 世界エンジニアリングデーに際して message-from-jfes-president
- 資料 1-3-6 シンポジウムプログラム program-1st-wed-sympo
- 資料 1-3-7 WFEO 会長メッセージ
- 資料 1-4 CPD 活動及び登録に関するアンケート調査結果(各学協会からの回答)

参考資料 1-1 CPD 協議会 2020 年度事業計画、2019 年度事業報告

参考資料 1-2 2020 年度 CPD 協議会役員・委員名簿 2020.6.18

参考資料 1-3 CPD 協議会 CPD プログラム委員会構成(2020.7.17)

議事

1. 日本技術士会/青年技術士交流委員会の活動について
 - 資料 1-1-1、1-1-2 により、日本技術士会/青年技術士交流委員会/竹内委員長から、昨年度実施した日豪交流、FEIAP(アジア太平洋地域技術者協会連合)における Youth Talent Development WG 活動について説明があった。
 - 青年技術士交流委員会の活動を通じて、日豪技術士間の交流の基盤を構築することができた。
 - Youth Talent Development WG を代表して FEIAP 執行理事会で活動報告を行った。WG として推進する交流活動 Young Engineers Exchange (YEx) を本年 4 月にマレーシアで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。また、2021 年にフィリピンで開催される FEIAP 会議に合わせて、Youth Talents Innovation Competition を開催

するべく検討中である。

- アジア太平洋地域の若手技術者は、とにかくやってみる、やりながら修正するという、積極的な姿勢の人が多いという印象であった。
- 技術者全般に、国全体の経済の視点で論じるなど、日本の技術者と比べて、より高い視点で考えていると感じられた。
- 会議のアレンジなどを通じて、技術者の社会的ポジション、存在感が高いと思われた。
- 日本技術士会／青年技術士交流委員会のメンバー資格は45歳以下。各地域本部に20-30名のメンバーがおり、1回/月程度の頻度で活動を行っている。全国合わせて100名以上が参加。
- 青年技術士交流委員会の主催するCPD行事ではグループ討議などを通じて、成果を出す、各人の技術を生かすような研鑽となるよう心掛けている。

2. 前回議事録の確認

- 資料1-2により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

3. CPD協議会運営委員会（第27回、第28回）報告

- 資料1-3-1、1-3-2により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
- ECEプログラム委員会では、資料1-3-3に示すとおり、2019年度には4件のプログラムを完了、2020年度は継続3件、新規1件の認定を予定している。
- CPD広報委員会は、引き続き資料1-3-4に示すような“一口メモ”による啓発活動を行っている。日本工学会全体の広報委員会が発足予定であり、連携していく。
- 世界エンジニアリングデイ記念シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったが、スモールミーティングを開催し、資料1-3-5に示すメッセージをとりまとめ、発信した。2021年も世界エンジニアリングデイに合わせて第2回目のシンポジウムを開催する計画であり、準備を進めている。今年のシンポジウムで登壇予定であった方々の講演資料は日本工学会のホームページに掲載されている。
- 2020年度のCPD協議会の活動についても、新型コロナウイルスの影響で遅れが生じているが、年内には今年度第1回の公開シンポジウムをオンラインで開催する計画である。第2回目は、前述の2021年世界エンジニアリングデイ記念シンポジウムを充てる予定である。
- 本件に関連して、以下のコメントがあった。
 - 電子情報通信学会が新規に開始するECEプログラムは、計測自動制御学会に続く2つ目の学会主催のプログラムである。継続教育の活性化のためにも、他の学会においてもECEのような高度技術者教育プログラムを計画されることを希望する。
 - 教育プログラムの普及という観点で、CPD協議会メンバーの学協会間では、ECEプログラムのようなCPD協議会主催の教育プログラムについてはその参加費を各学協会の会員並みにするなどの工夫が必要ではないか。
 - 世界エンジニアリングデイ記念シンポジウムは良いことであるが、これに限らず、日

本の工学会全体の人材育成の合同シンポジウムあるいは国内工学界全体の会議を、4年に一度の世界会議（WE C）の間に開催することも、前向きに検討して欲しい。

4. CPD活動及び登録に関するアンケート調査 結果報告

- 資料1-4により、アンケート調査の結果報告を行い、各学協会からの回答につき、情報共有を行った。
- 日本技術士会の河津委員から、CPD協議会のアンケートへの協力に対し謝意が表明された。また、技術士制度の改革のスケジュールについては、現在文部科学省の委員会で検討中の段階であるが、CPD活動の実績を公的に証明し、その内外への表示を可能とする仕組みの構築を目指して、省令レベルの改正等として検討を進めることとされており、なるべく早期の実現を期待しているとのこと。

5. その他

- 広崎前会長から以下のコメントを頂いた。
 - 昨今の自然災害において地盤の重要性が認識されているところであるが、地盤工学会が地盤品質判定士の資格を作りCPDを更新の要件としていることは時宜を得たものであり、国、地方自治体等の行政サイドからの評価、活用が進んでいると聞いている。自然災害以外にも、今回のコロナも含め今後想定外の様々な問題が起こることが考えられ、こうした状況に対応するためにも科学的・工学的対処能力を保証する各学協会のCPD資格の重要性が高まるのではないかと思われる。こうした観点からも、各学協会のCPD啓発活動を推進するとともに、CPD活動に裏付けられた資格制度の工夫に取り組み高度な科学技術人材を育成確保する必要があるのではないか。
- 次回については、別途日程調整を行う。

以上